船舶におけるバイオ燃料の利用に関する調査検討委員会

【第3回委員会】（議事概要）

【日 時】 令和6年2月27日(火) 15:00~17:00

【場 所】 AP 新橋（対面・WEB 会議併用）

【議 題】

- ・ 以下の議題について、事務局より説明をおこなった。
 - (1) 陸上試験の結果について
 - (2) 「船舶におけるバイオ燃料取り扱いガイドライン」改訂（案）について
 - (3) 「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用の連絡協議会」の活動報告について

【主な議論】

- ・ 酸化防止剤については、ユーザーが自ら入手して添加するものではなく、燃料を購入した際には既に供給側で添加されているものであり、今回、3隻で海上試験を行ったが、酸化防止剤は全て供給側で入れた状態で供給した。仮に自作でバイオ燃料を製造したら、酸化防止剤はなるべく早いタイミングで添付することが基本である。また、酸化防止剤の添付量については、メーカーが規定する適量を使用する必要がある。
- ・ 機器の腐食・劣化について、昨年度はHVOを用いた試験を行ったが、HVOに関してはむしろ軽油・重油等に比べて長期保管性に優れているというのが一般的な見解になっている。バイオ燃料はFAME, HVO, SVOと種類があるが、注意事項の記載にあたり、バイオ燃料の具体的な種類を明記することも必要ではないか。
- ・ （陸上試験の結果に潤滑油への影響が記載されているが、）潤滑油への影響について記載してほしい。
- ・ 腐食については、燃料油系統以外にも付属機器への影響が考えられるので、その点を記載してほしい。
- ・ バンカー船や実証船における燃料の混合に関する記載があるが、混合割合 25%を境にIBCコードの適用が変わるが、それは輸送海外動向も関わってくるが、規制が段階的に合理的になるよう国際的ルールの見直しが必要。

以上